牛群検定通信　No39

◇夏！本番です！◇

暑い日が続いています。暑熱対策に「もう十分」はありません。何度でもチェックしてみてください。暑熱対策は、基本的に次の３項目に大別されます。

（１）牛を暖めない（日射し対策や屋根の加工など）

（２）牛を冷やす（送風扇やミスト、毛刈りなど）

（３）牛から熱を出さない（飼養管理の工夫など）

（１）と（２）は、牛舎の設備等として実施されていると思いますので、今回は（３）の牛から熱を出さないために出来る、飼養管理面の工夫について、牛群検定成績表から解説したいと思います。

１　昨年の検定成績の実績チェック

①標準乳量

検定成績表の昨年の７～９月ごろの標準乳量が他の検定月と比べて減量していませんか？もし、減量していれば、それは暑熱対策が不十分であったことを意味します。

②体細胞数

夏季は乳牛の体力（健康）が低下し乳房炎を罹患しやすく、体細胞数が増加する時期です。昨年の７～９月ごろの体細胞数が増加していれば、夏バテから乳牛の体力（健康）面が低下していたとも考えられます。

２　乳脂率と乳蛋白質率

７～９月に乳脂率が低下するようでしたら、粗飼料の食い込みが低下していることになります。一般的に、暑熱により採食量が減少する飼料は、粗飼料＞サイレージ＞濃厚飼料の順になります。これは、粗飼料の繊維がルーメンでの発酵熱の発生に影響するためですので、食い込ませるには次のようなことに留意します。①良質なもの、②給与回数の増加、③切断長の短縮、④夜間給与など。そして、粗飼料の食い込みが減量した分は濃厚飼料で補うことも重要です。この時期の乳蛋白質率が低下していれば、減量した粗飼料分のエネルギーを補いきれていないことを示します。

３　ＭＵＮ

７～９月にＭＵＮが増加し１４mg/dℓ（地域差あり）を越えるようでしたら、蛋白飼料過多です。蛋白飼料は、炭水化物や脂肪と比べ、体内での熱の発生量が大きいことが知られていますので、適切な量を与えることが重要です。代表的な蛋白飼料は、豆科乾草、大豆粕、豆腐粕等です。

また、生粕類は、この時期には変質しやすいので更に注意が必要です。

４　その他

①飲水

新鮮で十分な飲水量を確保することは最も重要です。

②ミネラル

発汗と流涎からＮａ（ナトリウム）とＫ（カリウム）が不足します。重曹等で補うことが良く行われています。

平成 25 年 8 月　家畜改良事業団電子計算センター